

平成23年度 病害虫発生予察注意報 第1号

平成23年6月3日
発表：福島県病害虫防除所

- 1 対象作物：モモ
- 2 病害虫：モモせん孔細菌病
- 3 対象地域：県内全域
- 4 発生量：やや多い

予報の根拠

- (1) 本年5月29～30日にかけて、台風2号より変わった温帯低気圧の影響による強風と降雨のため、本病の感染に好適であったと考えられる。
- (2) 前年秋期（平成22年9月下旬）の新梢葉における発生ほ場割合は、中通り北部で平年同様に高かった（図1）ため、越冬菌量が多かったと考えられる。
- (3) 本年5月下旬の春型枝病斑（スプリングキャンカー）の発生ほ場割合は、福島、伊達地域とも平年より高かった（図2）。また、県内の他の地域においても春型枝病斑（スプリングキャンカー）の発生が確認されている。
- (4) 東北地方の1か月予報（5月27日仙台管区气象台発表）では、平年同様曇りや雨の日が多く、降水量は東北太平洋側で平年並か多いと見込まれている。

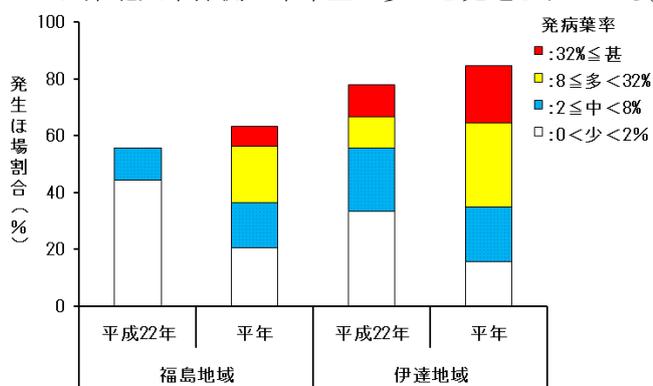


図1 前年秋期の新梢葉における発生状況（平成22年9月下旬）

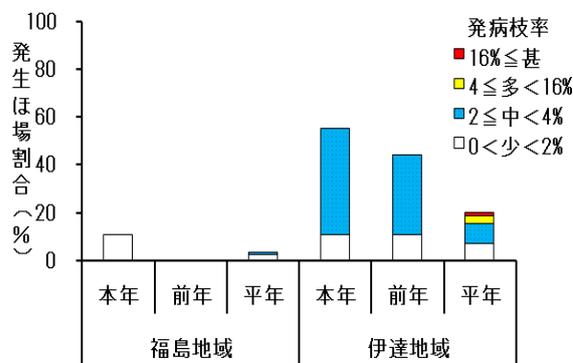


図2 春型枝病斑の発生状況（本年5月下旬）

防除対策

(1) 耕種的防除

春型枝病斑は見つけしだいせん除して適切に処分する。また、被害葉や被害果実は二次感染源となるので、見つけしだいせん除して適切に処分する。

果実被害が多い場合は、6月15日頃までに袋かけを行う。

(2) 薬剤防除

下記の表からいずれかの薬剤を選択して散布する。発生が多い場合には、スターナ水和剤、バリダシン液剤5、マイコシールドのいずれかを使用する。

また、同一薬剤の連用は耐性菌の出現などのリスクがあるので、連用せずローテーションで使用する。

表 モモせん孔細菌病の主な防除薬剤（平成23年5月25日現在）

薬剤名	成分名	希釈倍数	使用期間 (収穫前日数)	本剤の使用回数
スターナ水和剤	オキシリニック酸	1,000倍	7	3
チオノックフロアブル	チウラム	500倍	7	5
デランフロアブル	ジチアノン	600倍	7	4
トレノックスフロアブル	チウラム	500倍	7	5
バリダシン液剤5	バリダマイシン	500倍	7	4
マイコシールド	オキシテトラサイクリン	2,000倍	21	5

※薬剤を選択する際、選択した薬剤の使用回数と含有する有効成分の総使用回数（他剤を含む）に十分注意する。（チウラムを含む薬剤の総使用回数；5回以内）

※薬剤を選択する際、収穫前日数に十分注意する。

※希釈倍数の下線は、登録上の希釈倍数に幅があるなどの場合で、防除指針で採用されている希釈倍数を示す。

- 情報内容への質問や要望は福島県農業総合センター安全農業推進部発生予察課（病害虫防除所）までご連絡ください。 TEL 024-958-1709 FAX 024-958-1727